

ここが聞きたい！

いっぱん

島根リハビリテーション学院の 大学化を

藤原和範 議員

町長 専門職業大学への移行を
検討し実現させたい



問 島根リハビリテーション学院は、4年制の医療技術者養成専門学校として、卒業生の4割以上が県内の医療機関等に就職し、人材養成校の役割を果たしている。学院の魅力化について、総合戦略では「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関」の創設に向けた検討を進めるとされている。また、中教審は、職業教育に特化した新たな専門職業大学の創設を求める答申案をまとめた。近年学院を取り巻く環境は、少子化や県内の養成校の競合化等により入学者が減少し、厳しい状況だが、学院の専門職業大学への移行の考えは、

答 文科省は19年度開設を目指し、必要な法改正を行い、新教育機関は、大学と同じ位置づけで学士などの学位を与えることができるものとなる。専門職業大学への移行は、入学者へのアピールになると思われるので、十分に検討し実現させたい。

問 移行への実現に向け検討委員会を設置し、学院の魅力化を積極的に推進しては、

答 検討準備委員会を本年度設置予定である。



魅力化を進める島根リハビリテーション学院

問 地域の歴史的魅力を通じて、日本の文化伝統を国内外に伝える日本遺産・第2弾として、鉄の

道文化圏推進協議会から申請していた「出雲國たたら風土記く鉄づくり千年が生んだ物語」が認定された。

たたらに関する文化財・資源が多い本町として、今後どのように独自性をPRしようとしているのか。

答 日本遺産に認定され気運が高まりつつある今こそ、たたら製鉄が持つ多様な価値について調査研究し、仁多米やソバをはじめとする固有の資源と有機的に結び付け、「たたら製鉄の本物は奥出雲町にある」との認識のもと、住民の皆さんと連携しながら、引き続き情報発信を図っていききたい。

問 日本遺産のたたら製鉄を活かした観光振興は、

答 地方創生加速化事業における和鉄やそろばんを活用した新しい土産物の開発や、たたら製鉄をはじめとする観光資源の魅力化をPRし、広域観光を積極的に推進する。

観光振興による地域経済の活性化に向け、たたら製鉄のストーリーを活かしながら戦略的に取り組んでいく。

問 世界遺産登録に向けての取り組みは、

答 国、県等関係団体と広く連携し、たたら製鉄の奥深さを知っていたとき、日本遺産の認定を一里塚として、更なる調査研究を通じて、気運の醸成を図っていく。

問 再生可能エネルギーの地産地消の目的意義は、

答 再生可能エネルギーの地産地消を推進し、町外へ流出する購入コストを町内で循環させ、地域の活性化を図る。

問 新しい電力小売会社の今後の対応は、

答 千田農林土木課長
新会社「奥出雲電力株式会社」は今秋から公共施設を皮切りに町内事業所への供給も行いたい。一般家庭等は来年度以降に検討する。